新年のごあいさつ　平成22年

今年も市民の皆さんにとりまして穏やかな1年となりますように

香美市長
門脇 槇夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には輝かしい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また旧年中は市政に対しまして何かとご指導、ご協力いただきましたことに心から感謝申し上げます。

昨年は、夏に執行された衆議院選挙で民主党の圧倒的な勝利の結果、政権交代が実現する歴史的な年でありました。選挙戦での民主党のマニフェストは多くの財源を必要としています。無駄を無くすることによる財源確保は重要でありますが、基礎自治体を重視し、地域主権を確立するという政権公約の上からも、地方の実情・実態を十分見極めた上での国政運営を推進していただきたいと願うものであります。

さて、今年は念願の新庁舎建設工事も本格化してまいります。工事中は、ご近所の方々や来庁される皆様にご迷惑やご不便をおかけすることもあると存じますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

今年も全職員一丸となって、市民の皆様方の安全で安心な生活を守ることを念頭に、健全な行財政運営に心がけてまいりますので一層のご指導をお願いいたします。

今年も皆様方にとりまして穏やかな一年となりますようご祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。

香美市のさらなる発展をめざして

香美市議会議長
中澤 愛水

平成22年の年頭にあたり、市議会を代表し、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。市民の皆様方には、ご健勝で輝かしい新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。いよいよ新庁舎の建設も始まり、本年3月1日には、香美市誕生から5年目のあらたなまちづくりがスタートいたします。合併後4年間の総括とその上にたって、香美市飛躍のためさらなる基礎固めに取り組まなければなりません。地域の再生と産業の振興、定住人口政策や行財政改革への積極的な取り組みなど市政発展の基礎固めに、引き続き努力を傾注して行くことが求められています。また、環境問題や健康指向への関心の高まりの中で、安心・安全な生活実現のため山積する課題に市民一丸となって、本年も力強く取り組んで行かねばなりません。昨年8月の衆議院選挙で国政も大きく変わりました。新しい転換を迎えた現在、日本の地方自治も新しい局面にむかって大きく変貌しようとしています。こうした変化は、当然香美市の市政にも波及しつつあります。時局の変化と将来への展望を適正に見極め、議会もその職責を果たして行かなければなりません。情報公開と市民参加と協働による力強いまちづくりを進めるためにも、さらなるご指導とご協力をお願いいたします。

市民の皆様方のこの一年のご健勝とご多幸をお祈りし、年頭のご挨拶といたします。

市役所のCO_2排出量 10.1%削減 達成

―香美市地球温暖化対策実行計画の経過報告―

香美市では地球温暖化の防止を目指した「地球温暖化対策実行計画」を策定し、平成１９年度から市が管理し、職員が常駐している４９施設（本庁・支所・小中学校・保育園・消防署等）から排出されるCO_2（二酸化炭素）削減に努めてきました。

今回平成２０年度の取り組み状況がまとまりましたので、報告します。

CO_2削減目標

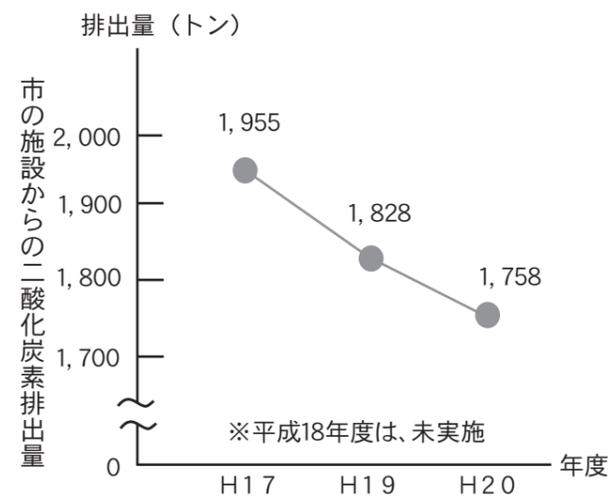
平成１７年度を「基準年」として、基準年に市の管理施設から排出されたCO_2の総量を基に目標を設定しています。

基準年の排出量から3.7％以上削減
（基準年のCO_2排出量　1,955トン）

平成20年度のCO_2排出状況

基準年から10.1％削減し、目標を達成しました！（平成20年度のCO_2排出量　1,758トン）

香美市役所では、『エアコンの「冷やし過ぎ」「暖め過ぎ」を防止する』、『昼休みはパソコンや照明を消す』など、職員の細かな「ムダを省く」行動を、計画的に継続して取り組むことで、CO2の発生を抑制しています。

これらの取り組みの結果、平成２０年度は基準年と比較すると、温室効果ガスを、１０．１％削減することができました。この削減量は、平均的な家庭（夫婦２人・子ども２人）の１年間のCO2排出量でいうと約３７世帯分にあたります。

また、平成２１年度に香美市では、地球温暖化問題に対して、市民・事業者・行政が協働の下、地域の特性を活かした地球温暖化対策の実施や、環境に配慮したまちづくりを目的とした『香美市地球温暖化対策地域推進計画』を策定することとなりました。

今後も継続してCO_2の削減に取り組むことで、京都議定書の目標達成を目指す我が国の施策に、地方公共団体として寄与していきます。

家庭でできる地球温暖化対策

家庭においても身近なことからできる地球温暖化対策。「そんな大げさなのは苦手」という人なら「節約」と思って取り組んでみましょう。

取り組み例

①暖房時のエアコンの室温設定について

６～９畳用エアコン１台を１日９時間使用時に、設定温度を２１℃から２０℃に変更した場合、年間約１,２７０円の節約。

②炊飯ジャーやポットの長時間の保温をやめる

電気ポット満タンの水を沸騰し、ポット半分の状態で１日１４時間の保温と２回の給水・再沸騰を行った場合と、湯を利用するたびに沸騰させた場合を比較すると、年間２,５８０円の節約。

③車の急発進・急加速をしない

年間１万㎞走行し、１０㎞走行毎に行っている急発進・急加速をやめた場合、年間約３,４４０円の節約。